

【教材と子どものかかわり】

本学級の子どもたちは、6年生として学校をよくしていこうという思いが強く、委員会活動では進んで発言したり、奉仕活動を行ったりしている。一方で、社会問題に興味をもっている子が少なく、事前にとったアンケートでも、政治について難しそうなイメージをもっている子が多かった。

名鉄西尾蒲郡線（赤い電車）は、利用者数の減少から数年前より存続の危機に陥っており、平成28年度以降の存続は白紙状態である。本校の卒業生の約3分の1が高校への通学手段としてこの電車を利用しており、本学級の児童にとって、喫緊の問題である。

そこで、赤い電車の存続問題について追究を行っていくなかで、身近な問題に関心を持ち、学校のために進んで委員会活動を行っていくことと同様に、問題に対する自分たちの思いや考えを届けることが政治と深くかわっていることに気づかせたい。

【めざす子ども像】

- ・友達の意見を反応しながら聞き、自分の考えと照らし合わせ、追究することができる子
- ・身近な社会問題に関心を持ち、調べを進めるなかで、問題に対する自分の考えをもつ子

【単元のとらえ】

ここ10年で利用者が約20%減った名鉄西尾蒲郡線。数年前から利用者数を増やそうと、名鉄と沿線市役所などによる協議会が何度も重ねられ、それに関する資料が多く残っている。また、市民の声で「市民丸ごと赤い電車応援団」が立ち上がり、様々な施策が行われてきた。その応援団の団長を務めた方が学区にみえる。子どもたちにも関わる喫緊の社会問題であり、実物が身近に存在し、さらに人や資料に多く触れることのできる赤い電車の存続問題は、政治について考えるのに適した教材であると考えた。

自分たちの未来に関わる地域の問題に興味をもった子どもたちは、資料を読み取ることで利用者が減少していることを知るだろう。一方で、町の声や電車の必要性も感じるだろう。そこで、赤い電車を残すためにどんな活動をしているのか調べさせていくなかで、応援団の団長を務めていた太田さんに出会わせる。子どもたちには、太田さんに出会うことで、今までの学習をふまえて、改めて赤い電車について自分なりの考えをもたせたい。

本時は、赤い電車に対する自分の考えを交流させる。話し合いでは、図や絵を用いて説明させる（視覚化）ことで、自分の意見をよりわかりやすく伝えさせる。また、個々の考えを座席表に落としたものを配布する（共有化）ことで、安心して意見交流に臨ませたい。意見の根拠を整理し、子どもたちの電車に対する意見を板書で焦点化し、様々な見方に触れることで、この先電車を残していくために、自分たちにできることについて考える足がかりにしたい。

【目標】

- ・赤い電車は、蒲郡市が、住民の願いを取り入れながら県と協力して存続させようとしていることを、資料などから読み取り、理解することができる。  
(観察・資料活用の技能、社会的事象についての知識・理解)
- ・赤い電車の存続問題を自分たちの問題としてとらえ、問題の解決策を考え、自分たちにできることを行動に移そうとすることができる。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)

〈本時の指導〉（7/8）

◎目標

- ・課題について、資料や取材内容を根拠として自分の考えを話すことができる。(思考・判断・表現)
- ・市民の一員として、赤い電車を残すためにどうしたらいいのか考えようとするすることができる。(関心・意欲・態度)

◎学習過程

学習活動	この先、赤い電車をどうしていくべきか		
①課題について自分と友達の考えを比べながら交流し、赤い電車についての学びを深める。	<p><b>何とかして残すべき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの将来の選択肢が限られる</li> <li>・車に乗れないお年寄りが困る</li> </ul>	<p><b>根拠・資料</b></p> <p>お年寄り・学生にとって必要な交通手段</p>	<p><b>廃線もしようがない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの本数を増やせばいい</li> <li>・全体で考えたら困っていない人もいる</li> </ul>
②太田さんの話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金は困っている人のために使うもの</li> </ul>	<p>残すのに税金を使っている 1億300万円/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと他のところに税金を使うべき</li> </ul>
③交流や太田さんの話を通じて学んだことを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太田さんたちの努力をむだにしてはいけない</li> <li>・続けていけば理解してもらえる</li> </ul>	<p>残そうとたくさんの人が努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめてから4年たつのに、うまくいっていない、特に定期外利用者が減っている。</li> </ul>
<p>電車を残したい思いはみんな同じ、でも、やってもうまくいかない。どうしたらいいのかな。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の人や学校、地域の人に電車の大切さを広める、利用者を増やす。</li> <li>・必要性を市や名鉄に訴えて、続けてもらえるようにお願いします。</li> </ul>			

◎評価

- ・課題について、図や資料を用いて、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができたか。(ワークシート・発言)
- ・赤い電車の問題を自分たちの問題としてより深くとらえ、自分にできることを日常生活に活かそうとすることができたか。  
(交流の様子・授業日記)

〈ご高評〉

【ねらい】

《単元構想表》届けよう ぼく、わたしの声を ～赤い電車の存続をめぐる～ (全8時間)

【学習活動と子どもの反応】

・高校生からの手紙を読むことで、赤い電車について興味をもつことができる。

【出会う】高校生からの手紙と混雑している赤い電車①

- 赤い電車がなくなるらしいよ。
- なくなってしまうと、高校生が言っていたように、将来通学に困ってしまうね。
- でも、朝赤い電車を見たらたくさんの人が乗っていたよ。
- 混雑していて、自分たちに必要な電車なのに、なぜ、なくなってしまうのかな。

なぜ、なくなってしまうの② (資料や名鉄の回答より)

- 利用者がここ10年で43万人減っているね。
- 特に、通勤で使う人や、普通に切符で買う「定期外」利用者が減っているんだ。
- 朝は人でいっぱい駅も、昼になると、ほとんど乗っていないね。
- この路線の赤字は、9億円近くもあるよ。人が乗らないから続けていくのが厳しいんだね。
- どうしてこんなに乗らなくなっちゃったんだろう。
- 町の人は、なくなることについてどう思っているか知りたいな。

突撃！赤電街角インタビュー！③ (家族・乗車する人などへの聞き取り)

- お姉ちゃんが、電車がなくなると西の方の学校に通えないから、高校を選ぶときに行きたいところに限られてしまうって言っていたよ。
- おばあちゃんが、病院に行くときに困って言っていた。
- おじいちゃんは、小さい頃からよく家族で赤い電車に乗って旅行に行ったらしいよ。
- 駅でインタビューをした人が、赤い電車から見える景色が大好きで時々乗るらしいけど、なくなったらさびしいって言っていたよ。
- 形原からたくさん的高校生が赤い電車を使って通っているんだね。
- 電車がなくなっても特に困らない、という人もいたよ。
- 税金も使っても残されているんだから、やっぱり電車は廃線になってもしょうがないのかなあ。

赤い電車は続けていけるのかな④ (座席表)

〈続けていけない〉

- なくなっても困らない人もいるよ。
- 税金を他のところで使えばいいじゃん。
- 使っている人はどんどん減っている。

〈続けていくべき〉

- 電車より時間がかかるし、値段が高くなるよ。
- 困っている人のために使うものが税金だと思う。
- それでも自分たちの将来のために必要！

◇どうしてずっと赤字なのに、赤い電車は走り続けているのかな？

電車を残すために、どんなことをしているのかな

赤い電車を残すためにだれがどんなことをしているのかな⑤ (インターネット・電話などで調べ学習)

- ・高校生 (蒲高生による You Tube)
- ・中学生・先生 (沿線練習試合)
- ・企業 (通勤利用促進)
- ・ウォーキングなどのイベント
- ・他市町 (にしがま応援団)
- ・市役所の受付に応援BOXがある。

市民まるごと赤い電車応援団

- いろいろなことをやっているんだなあ。
- イベントにも税金が使われているんだ。
- でも、いろいろやってもうまくいっていないんだよね。どうしたらいいんだろう。
- おじいちゃんが、6区の総代さんが少し前に応援団の団長さんをしてたよと教えてくれたよ。話を聞いてみたいな。

太田さんに話を聞いてみよう⑥

- ・月に1回電車についての会議をして、電車に乗るイベントをたくさん企画した。
- ・電車の良さを知ってもらうためにカレンダーやパンフレットを作り、テレビにも出た。
- ・電車がなくなると町がさびれてしまう。悲しい。廃線した三河線のようになりたくない。
- ・がんばっても利用者が増えないことが悩み。どうしたらいいのかわかっていた。
- やっぱり電車は残していかないといけないな。太田さんの努力を無駄にたくないな。
- 太田さんみたいな人がいろいろやっているのに、うまくいかないっていうことは、やっぱり電車は廃線になってもしょうがないのかなあ。

この先、赤い電車をどうしていくべきか⑦ (太田さんに立ち会ってもらおう) (座席表)

〈何とかして残すべき〉

- 困っている人がいる限り、電車は存続するべき。
- 自分たちの未来がかかっている。
- 西の高校にいけなくなる。
- 残したくてがんばっている人がたくさんいる。
- 提示資料家の人がどれくらい利用しているかOR名鉄の人も実は残したいと思っている。

〈廃線もしょうがない〉

- 一部の人の税金ではない。
- 他にも交通手段はたくさんある。
- 電車がなくなっても困らない人もけっこういる。

本当は、みんな残したい気持ちは一緒、でもうまくいかない、どうしたらいいんだろう

※太田さんに聞いてみよう

- ・家の人や学校、地域で赤い電車をさらに使っていくこと
- ・必要性を市や名鉄に訴えて、行政に動いてもらうこと

赤い電車を自分たちの手で存続させよう！

【意見を発信する】思いをみんなに広めよう！これぞ6-3赤電応援計画！⑧

- 形小の後壁に、電車の大切さを伝える。
- 市長への手紙に書く。○新聞に意見文を送る。○市役所の意見箱に意見を入れる。
- 遠足や子供会で電車が使えるように、先生や家の人をお願いをする。・・・

【☆支援 ◎評価】

☆本教材に興味をもたせるために、本校卒業生からの電車がなくなると困るといった内容の手紙を読む。  
 ☆児童が読み取りやすいように、必要な部分だけを表にした資料を提示する。  
 ☆電車を利用している人が少ないことを実感できるように、電車の乗車映像を見せる。  
 ◎赤い電車がなぜ存続の危機に陥っているのか資料から読みとることができたか。

☆だれが、どんなことに困るのか世代別にまとめることで、電車の存続が自分たちの身近な未来と大きく関わっていることに気づかせる。  
 ☆バスやタクシーの良さや欠点をそれぞれまとめることで、電車の必要性を感じ取らせる。  
 ☆税金についての本を読み、税金への理解を深めさせる。  
 ◎電車を存続させたい、という思いを強めることができたか。

☆あらかじめ、太田さんに聞きたいことを出させておく。  
 ☆太田さんたちの活動をまとめやすいように、ワークシートを工夫する。

◎多くの人が、電車を残そうと努力していることに気づいたか。  
 ◎太田さんたちの活動がどのように、実現されていたのかを知ることができたか。

☆自分の考えを述べる際は、根拠をもとに話ができるようにする。  
 ☆話し合いを太田さんに聞いてもらい、どうしたら電車が存続できるのかアドバイスをもらう。  
 ☆自分たちの願いを市に届けてうまくいった例を紹介する。  
 ◎赤い電車を残すために、自分たちが動き出さないといけないことに気づくことができたか。

☆自分たちにできることを具体的に考えることができるよう、応援団の活動をもう一度振り返る。  
 ☆自分たちの声を直接市に届ける場を設けることで、政治に参加している実感をもたせる。  
 ◎自分たちの願いを届けることの大切さを感じることもできたか。

・赤い電車に関する資料を読み取り赤い電車の存続が危ぶまれている理由が分かる。

・町の人が廃線についてどう感じているか聞き取り調査をすることができる。

・電車の存続のために、多額の税金が使われていることを理解することができる。

・電車の必要性について、根拠を明らかにして考えをもつことができる。

・電車を残すために、どのような活動がされているか調べることができる。

・太田さんたちの行ってきた活動について調べたことをまとめることができる。

・太田さんたちの活動は、税金を使って実現されていることを知ることができる。

・太田さんの赤い電車に対する思いを、調べたことから考えることができる。

・自分の考えと友達の見解を交流することで、電車の必要性について改めて考えることができる。

・電車を存続させるためには、思いだけでなく、その思いを活動として実現させていくことの大切さに気づくことができる。

・市民の声を市に届けることで、自分たちの願いが実現されていくことを実感することができる。